

令和 7 年 度 自 己 評 価 表

【中長期目標(学校ビジョン)】

- 1 主体的で深い学び、幅広い学びをとおして、学問への興味・関心や実践力を養い、社会参画力、課題対応力を育成する。
- 2 地域に学び、地域に貢献する態度を育てることをとおして、ふるさとを愛し、社会の平和と発展に寄与する実践力を育成する。
- 3 協働的に試行錯誤、切磋琢磨しながら学び、自身の夢の実現に向け、努力する力を育成する。

【今年度の重点目標】

- 1 学力向上と進路実現の支援
① 基礎学力の充実 ② 授業改善の推進 ③ 探究活動の充実 ④ 進路実現への支援
- 2 心身の健全な発達の促進と主体性、社会性の伸長
① 基本的生活習慣の確立 ② 規範意識の高揚 ③ 人権を尊重し、多様性に配慮した他者理解力の育成
④ 部活動の推進 ⑤ 学校行事への積極的関与 ⑥ 地域貢献活動の推進
- 3 その他の学校課題への取組
① 情報発信の推進 ② 業務改善の推進

	具体的項目	令和 7 年度当初			評価結果（9 月）		
		現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 学力の向上と進路実現の支援	基礎学力の充実	・自宅学習時間調査は 5 月と 11 月(期末考査直前)に行ったが、平素の学習時間を反映した 5 月の結果では、1 週間の平均で 1 日当たり、1 年 92.1 分、2 年 106.6 分、3 年 113.2 分であった。 ・学校評価アンケート(11 月)において、授業の内容に関心を持ち、意欲的に取り組んでいるとする生徒の割合は 90%であるが、必ずしも常態的とは言えない。一方で毎日自宅学習を行っている生徒の割合は 60%。	・平素時期の自宅学習時間は、1 週間平均で 1 日当たり、1、2 年が 120 分以上、3 年が 200 分以上。 ・授業内容に関心を持って意欲的に取り組む生徒の割合が 90%以上であり、授業を大切にして主体的に学習に取り組む。また、毎日自宅学習をする生徒の割合が 90%以上。	・自宅学習調査をもとに学習状況を把握した上で、学習習慣の定着を図るよう指導する。また、学習支援サービスの積極的な活用を促す。 ・授業評価アンケートを分析し、授業での意欲が家庭学習につながるよう工夫して生徒に指導する。 ・校内外の模試、実力テストの成績状況を、テストごとに各教科で分析し、上位層、中間層、下位層、それぞれに合わせた授業内容の工夫や、基礎学力向上のための対策を実施する。 ・学級担任、教科担任と密に情報交換し、成績下位層へのフォロー体制を整える。			
	授業改善の取組	・8 教科で計 25 回の公開研究授業を実施し、教員間で授業改善の情報共有に努めた。 ・教員向けクロムブック活用研修を計 6 回実施し、生徒が主体的、意欲的に取り組める授業となるよう職員のスキル向上を図った。	・全教科で研究授業、公開授業を総計 25 回以上実施し、他教科の授業も参観することで授業改善の参考とする。 ・教材の工夫や ICT の活用により、生徒の活動場面が増え、生徒が主体的に取り組む授業が実践されている。また、授業や課題等どこかの場面で生徒がクロムブックを毎日活用する。	・全教科による研究・公開授業や校内研修を実施し、教科の枠を超えた授業改善に取り組む。 ・教員向けの ICT 活用研修会を開催し、授業や課題等で効果的に生徒がクロムブックを活用できるようにする。			
	探究活動の充実	・探究部のアンケート調査(1 月)において、探究活動により思考力や実行力等が向上したとする生徒の割合は 34.7%。	・探究活動をとおして、思考力や実行力等が向上したとする割合が 50%以上。	・探究活動において生徒の主体性、課題対応力、探究的思考力を高める指導内容や指導方法を研究する。 ・校外の発表会への参加を促進することにより、生徒のプレゼンテーション能力や表現力の向上と教員の探究活動の指導力の向上を図る。 ・探究学習等における図書館の積極的な利用を促す。			
	進路実現への支援	・学校評価アンケート(11 月)では、進路実現に向けて努力している生徒の割合は 82%。 ・進路志望調査(10 月)では、4 年制大学を志望している生徒が 1 年 143 名(59.6%)、2 年 163 名(70.6%)、3 年 165 名(71.4%)であり、そのうち国公立大学志望者は 1 年 115 名、2 年 123 名、3 年 102 名であった。また、進路未定の生徒が 1 年で 60 名であった。 ・令和 7 年度入試で共通テストの出願者数は 113 名(昨年度 121 名)であり、国公立大学の現役合格者数は 54 名(令和 6 年度 53 名)。	・進路実現に向けて努力している生徒の割合が全体で 90%以上。 ・進路志望調査において 1 年生の進路未定の生徒が 20 名以下。 ・国公立大学の現役合格者数が 60 人以上。	・進路関係行事を充実させ、生徒の多様な進路志望の実現を図る。 ・進路 LHR 等において、生徒が内在する興味関心を表出し、進路決定につながるよう支援する。 ・総合型選抜、学校推薦型選抜に向かわせる一方で、共通テストを経て一般入試に向かう生徒を多く育成するよう努める。			

	具体的項目	令和7年度当初			評価結果（9月）		
		現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
2 心身の健全な発達の促進と主体性、社会性の伸長	基本的生活習慣の確立	・健康教育アンケートでは、平日に就寝時刻が深夜0時を超える生徒の割合が31.9%、就寝30分前にスマホを利用している率が87.9%、毎日朝食を取っている生徒の割合は91.6%。	・平日に就寝時刻が深夜0時を越えている生徒の割合が20%以下、就寝30分前にスマホを利用している率が80%以下、毎日朝食をきちんと取っている生徒の割合が95%以上。	・生徒保健委員によるスマート・ライフ・プロジェクト（3S：睡眠・朝食摂取・整理）を推進する。 ・食育講演会（全校生徒）やPTA食育研修会を実施し、継続した啓発活動につなげる。			
	規範意識の高揚	・学校評価アンケートでは、98%の生徒が学校で定められたルールやマナーを守るよう心がけている。なお、生徒がルールやマナーを守っていると評価している保護者の割合は99%、職員の割合は93%。	・ルールやマナーを守るよう心がけている生徒の割合が98%以上。 ・改正したルールやマナーを守った上で、生徒の主体的な活動により、校則の意義を考え、必要な見直しが行われている。	・身だしなみ点検を年3回実施するとともに、生徒生活委員会による啓発運動を活性化することで、新校則の遵守徹底を促す。 ・校則検討委員会により新校則について検証し、継続して見直す機会を持つ。			
	人権を尊重し、多様性に配慮した他者理解力の育成	・学校評価アンケートでは、生徒85%、保護者72%が、学校は心身の悩みに関わる相談について適切に対処していると考えている。 ・生徒77%、保護者70%は、学校が保護者(家庭)と連携して教育活動を行っていると考えている。	・生徒の心身の悩みに適切に対処していると回答する生徒の割合が85%以上、保護者の割合が80%以上。 ・保護者(家庭)と連携して教育活動を行っているとは回答する生徒の割合が85%以上、保護者の割合が80%以上。	・年度当初にコミュニケーションLHRを設定し、生徒同士の円滑な人間関係の形成を促す。 ・校内の全教科全領域及び校外の活動をとおして、多様な他者との対話や関わりの機会を増やす。 ・「学校生活アンケート」、「Hyper-QU」の調査結果を踏まえ、要支援生徒を中心に、悩みを抱えている生徒の情報共有を行う。学力不振の生徒には発達検査を行い、不振の原因を明確にし、対応策を提示していく。また、家庭やSC、SSW、関係機関等と連携する。			
	部活動の推進	・学校評価アンケートでは、部活動に所属する生徒のうち、学習との両立に向けて努力していると回答した生徒は34%、ややできている生徒が45%であった。 ・全国大会へ出場した生徒は33名(実人数)。	・学習と部活動の両立に向けて努力している生徒の割合が80%以上。 ・全国大会に出場する生徒数が50名(実人数)以上。	・生徒が向上心と意欲をもって粘り強く取り組めるよう、的確な方針や計画・目標等を設定するとともに、学習との両立を支援する。			
	学校行事への積極的関与	・学校評価アンケートでは、HR活動や生徒会活動、学校行事で主体的に活動していると回答した生徒は77%。	・HR活動や生徒会活動、学校行事で主体的に活動している生徒が80%以上。	・学校諸行事の様々な場面において生徒が主体となって企画、実施できるよう図るとともに、その方法を下級生に引き継ぐことができるよう指導する。			
	地域貢献活動の推進	・学校評価アンケートでは、学校が地域と連携した教育活動に積極的に取り組んでいると回答した生徒は86%。 ・探究活動により、地域理解が深まったとする生徒の割合は29.4%。 ・昨年度第1回愛し愛され運動(6月)には、322名(全校の約45%)の生徒が参加。第2回(11月)は個人参加型の保育所清掃に40名が参加した。	・学校が地域と連携した教育活動に積極的に取り組んでいると考える生徒が90%以上。 ・地域理解が深まったとする生徒の割合が50%以上。 ・今年度の愛し愛され運動(清掃活動)は個人申込みを基本とし、参加生徒が70名(全体の約10%)以上。その他の奉仕活動にも積極的に参加する。	・ふるさとキャリア教育の観点から、小中学校との交流行事や各類型において地域及び企業等との連携を充実させる。 ・地域の清掃活動や挨拶運動、保育所や福祉施設を訪問しての交流行事に積極的に取り組み、地域を愛する心を育む。 ・探究活動における地域や企業等との連携を充実させ、生徒が自身の生き方、あり方を考えられる機会とする。			
3 その他の学校課題への取組	情報発信の推進	・学校評価アンケートでは、学校のホームページが学校の様子をよく伝えていると回答した生徒が88%、保護者が80%。	・ホームページやSNSにより、学校の様子をよく伝えていると考える生徒、保護者がともに90%以上。	・学校や諸行事の様子について、分掌、教科や部活動などの単位でホームページやSNSで発信する。 ・分掌においては情報発信の担当者を決め、積極的に行事等について発信を行う。			
	業務改善の推進	・学校全体や類型行事の見直しを行っているが、時期によっては行事や会議が集中することがある。 ・令和6年度、時間外在校等時間が月45時間を超えた教職員が月平均9.3名、年間360時間を超えた教職員が25名。 ・令和6年度、年次有給休暇取得状況は、1人当たり14日。	・できるだけ縮減する方針で行事の見直しが行われ、会議は1時間以内で効率よく終わる。 ・時間外在校等時間が月45時間を超える教職員が月平均5名以下、年間360時間を超える教職員が10名以下。 ・年次有給休暇取得が1人平均14日以上。	・会議が短時間で効率よく終わられるよう、引き続き校内掲示板を活用する。 ・学校行事の必要性、効果を検証し、行事の精選について分掌ごとでなく学校全体を見通して行う。 ・分掌内では業務分担を積極的に行い、できるだけ業務の偏りがないようにする。 ・探究活動に関する事業の効果を検証し、学校設定科目「翠陵探究」、「探究ゼミ」に関わる行事のスリム化について研究する。 ・定期考査期間中はなるべく会議、研修を入れず、休暇を取得しやすくする。			

評価基準 A：十分達成 [100%] B：概ね達成 [80%程度] C：変化の兆し [60%程度] D：まだ不十分 [40%程度] E：目標・方策の見直し [30%以下]